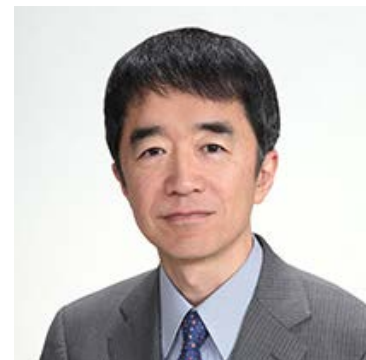


第三者意見

「KUBOTA REPORT 2017 事業・CSR報告書」に対する第三者意見

◆ 質・量とも充実した報告

KUBOTA REPORTは、事業活動とCSR活動を一体化した報告として、開示される情報の質と量の双方の点で、網羅性と詳細性が高く、レベルの高い情報開示がなされていると思います。「グローバル・メジャー・ブランド（GMB）」の実現を目指すクボタグループに相応しい内容であると評価できます。今後の課題としては、全体を総括するKPIを是非設定していただきたいと思います。報告の中では非常に多くの指標が示されていますが、会社としてどの指標を戦略的に重視しているのかを示すことで、社会に対するコミットメントがより明確になると思います。さらに、冒頭にSDGsに言及されているのですから、具体的にどのようにSDGsとクボタの活動が関係しているのかを指標レベルで示されれば、国際的な評価もさらに向上することになるでしょう。



神戸大学大学院 経営学研究科
教授 國部克彦 氏

◆ 充実したコーポレートガバナンス情報

KUBOTA REPORTでは多くの情報について詳細に開示がなされていますが、そのなかでも、コーポレートガバナンスに関する情報は充実していると評価できます。特に、リスク管理について、詳細な情報を開示して対応策を示していることは、社会に対する誠実な対応です。現在の開示内容は、どちらかという法規制の遵守の側面が強いので、今後は、コーポレートガバナンス・コードの「基本原則2・株主以外のステークホルダーとの適切な協働」などについても、取締役会でどのように議論されて、どのように評価されているのかなどについても言及されれば、CSRの積極的な側面への取締役の関与が見えるようになり、より素晴らしくなると思います。リスク評価のようにCSRについても個別事項に踏み込んだ議論を期待しています。

◆ CSRマインドの醸成

クボタグループではCSRマインドの醸成に努力されていますが、これは非常に重要なことと思います。CSRの主役は経営者ではなく、社員一人一人なので、彼/彼女らの意識を啓発することが何より大切です。その時に重要なのは、コンプライアンス的なマインドの醸成だけでなく、クボタとして社会的価値をどのように創造できるのか、また創造すべきなのか、社員が主体的に考えることが、CSR力の強化につながります。これは一つの新規事業創造のようなものなので、全社的にバックアップすることが必要になるでしょう。それを前提として、外部の有識者とエンゲージメントを展開すれば、CSRのフィードバックループがうまく機能して、好循環が生まれるのではないのでしょうか。

第三者意見を受けて

2009年度より継続して國部先生より貴重なご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回、「情報の質・量共に網羅性と詳細性が高く、レベルの高い情報開示をしている」等について、評価をいただき、大変励みになります。

一方で「会社として戦略的に重視している指標の明示」に対するご意見については、世界の食料・水・環境分野を軸として社会の発展に貢献できる企業として、SDGs等の指標とのつながりがより分かりやすくなるよう検討していきたいと思っております。

また「株主以外のステークホルダーとの適切な協働」については、社会からの見方・ものさしのひとつである「CSR関連の各種外部ランキング」の順位や想定される評価理由を執行役員会で報告し、対応状況の向上を図っています。また、従業員をCSRを推進する主体である重要なステークホルダーとして捉え、「クボタグループ従業員CSR意識調査」を毎年実施し、調査結果や従業員からの意見を執行役員会で報告しています。今後もCSRに関し、踏み込んだ議論ができるよう努めてまいります。

「外部有識者とエンゲージメント」についても、今後検討していきたいと思っております。

これからもクボタグループ3万8千人が一丸となって、世界の食料・水・環境分野での課題解決に挑戦し、社会の皆さまに信頼され必要とされ続ける企業グループをめざします。



(株)クボタ 代表取締役 副社長執行役員
久保 俊裕